

山の百の花 番外編

同人会員 神森 揮子

【109】キクザキイチゲ

東京での在職中、思い立ったが吉日とばかりに夜行列車「ムーンライト越後」の切符を購入に駅へと急いだ。行く先は佐渡島で、新宿発 23 時だ。駅で佐渡まで行くと言う女性と一緒にになった。一人旅と思っていたが友を得ての楽しい旅の始まりとなった。翌朝、新潟港からフェリーに乗り両津港に到着。乗船時間は 2 時間 30 分程であったが非日常的な洋上での開放感に心まで解き放たれた。遙か昔は流刑の島、時代の流れの早さに地下で流人もさぞかし驚いていることだろう。

アオネバ溪谷の入り口でバスを下り、ドンデン山へと登って行く。沢沿いの斜面に白いキクザキイチゲの群生があり、中にコバルトブルーの花を見つけた。青いキクザキイチゲである。人づてには聞いていたがこの青さは形容しがたいほど美しい。周りのキクザキイチゲの白さがよりいっそう青さを際立たせている。しかしこの青い花は花卉ではなく変化したがくであるというか

ら驚きだ。よく似たアズマイチゲには青花はない。また花卉の枚数、葉の形もキクザキイチゲとは違い判別は容易だ。

日帰りの予定であった。ゆつくりと佐渡の歴史に触れる間も無くフェリーに乗船すると、朝両津港で別れた方から携帯にメールがあった。再会を約束しているのに未だ実現していないことが気になっている。



揮子



【110】イワウメ

今から 2 年半前の夏、銀泉台から入ってトムラウシへと縦走した時の事である。二日目、白雲岳避難小屋を後に忠別岳に向かう途中、地面に張り付くようにして至る所にそれは咲いていた。名前から判断すれば梅の花に似ているのだろうと想像はしてい

た。はたして、匂いこそ無いがまさしくこれは梅の花。何処からともなく匂いが風に乗って漂ってきてもおかしくないと錯覚するほど絨毯のように一面に咲いていた。

花卉の色は白や薄いピンクで、びっしりと米粒のような葉を敷き詰めた上に短い花茎を伸ばし咲いている。どの花を写真にしようかと歩き回るが、どれも美しく焦点が定まらない。私にとつて高山で疲れた時に会おう花は一服の清涼剤のようなものであると毎回思うのである。

花に見とれていて気がつかなかったが縦走路から見る裏大雪も素晴らしい。山肌が残雪と緑の縞模様彩られていて、その雄大な景色に圧倒され言葉も出ない。いつまでも眺めていたい今日の宿であるヒサゴ沼避難小屋が待っている。まだまだ先は長いのに重いザックが心なしか軽く感じるのは気のせいかな。

帰宅後イワウメを図鑑で調べてみる。草でなく常緑の矮小低木で、ピンクの色は花期の終わりに白から変わるのだとか。最後にピンク色に染まるなんて、なんと粋な花なのだろう。